

オジロワシの概要

1. 分類

- ・タカ目タカ科 オジロワシ
(学名 *Haliaeetus albicilla*)
- ・絶滅危惧Ⅱ類 (環境省レッドリスト 2020)



2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・全長約 69~92cm、翼開長 200~245cm の大型のワシ類。
- ・海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣。
- ・海鳥類、スケトウダラ等の海産魚類を捕食。漁船が捨てる雑魚も餌にしている。
- ・冬期は本州北部から中部にも渡り、まれに九州、琉球列島などに飛来する。

3. 分布状況

- ・ヨーロッパ、西アジア、東アジアに分布。
- ・極東における繁殖地はカムチャツカ半島、サハリン、北海道等。

4. 現在の生息個体数

- ・北海道と本州北部で越冬するオジロワシは約 700~1,000 羽 (オジロワシ・オオワシ合同調査グループ及び環境省による調査、2010 年~2020 年度結果より)。
- ・種としての総個体数は約 20,000~60,000 羽と推定 (IUCN、2021)。
- ・北海道の推定営巣つがい数は約 350 つがいであり (環境省、2021)、1990 年代に入って増加傾向である一方、繁殖成績の悪化が確認されている。

5. 生息を脅かす要因

- ・近年 10 年間の主要な傷病原因としては、列車事故、交通事故、風車衝突の順。
- ・列車事故、交通事故の多くは、事故死したエゾシカを路上や線路上で採食することによる二次被害 (衝突死)。
- ・電線における感電死。
- ・風力発電施設でのバードストライクによる衝突死。
- ・河川、湖沼、海岸の改修・開発による餌資源の減少。
- ・森林伐採や道路開発などによる営巣地の減少。
- ・エゾシカ猟に使用された鉛弾を死体とともに採餌することによる鉛中毒。
- ・カメラマンやハンターの繁殖地への立ち入りによる繁殖阻害。

6. 保護のための取組

- ・平成 5 年国内希少野生動植物種に指定、平成 17 年保護増殖事業計画 (文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省) を策定。
- ・越冬状況、営巣状況調査等を実施。
- ・人為的餌資源 (漁業活動から出る雑魚等)、自然性餌資源の把握。
- ・風力発電施設による影響調査。
- ・鉛中毒防止のため、道内ではエゾシカ猟への鉛弾使用が条例により規制されている。
- ・風力発電施設バードストライク防止策の検討・実施の手引きを改訂 (令和 4 年)
- ・列車事故防止のため、JR と協力してエゾシカ死体覆隠シートの開発などを実施。

- ・ 傷病個体（死体を含む）を保護・回収し、原因究明を行い、対策に活用。

7. 他法令による保護の状況

- ・ 昭和 45 年、天然記念物に指定。

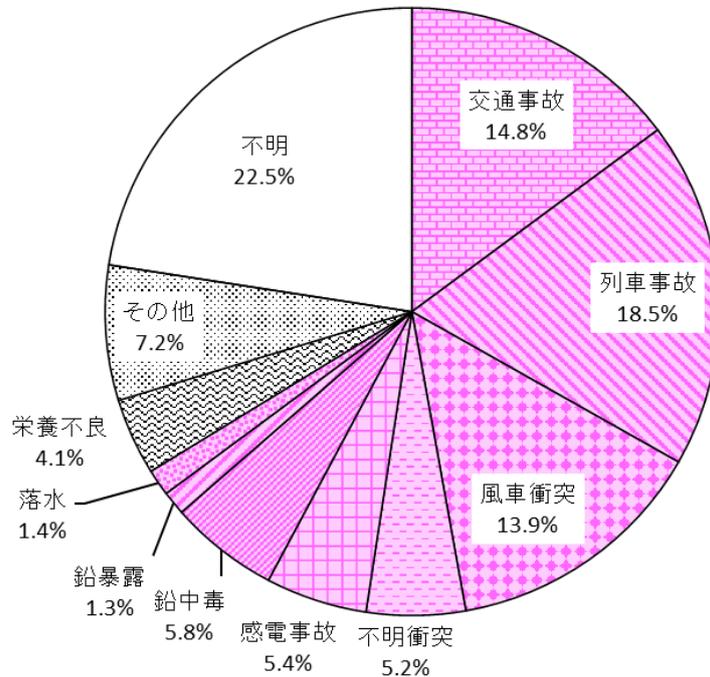


図1 オジロワシ收容原因別割合 (H12-R6年度)

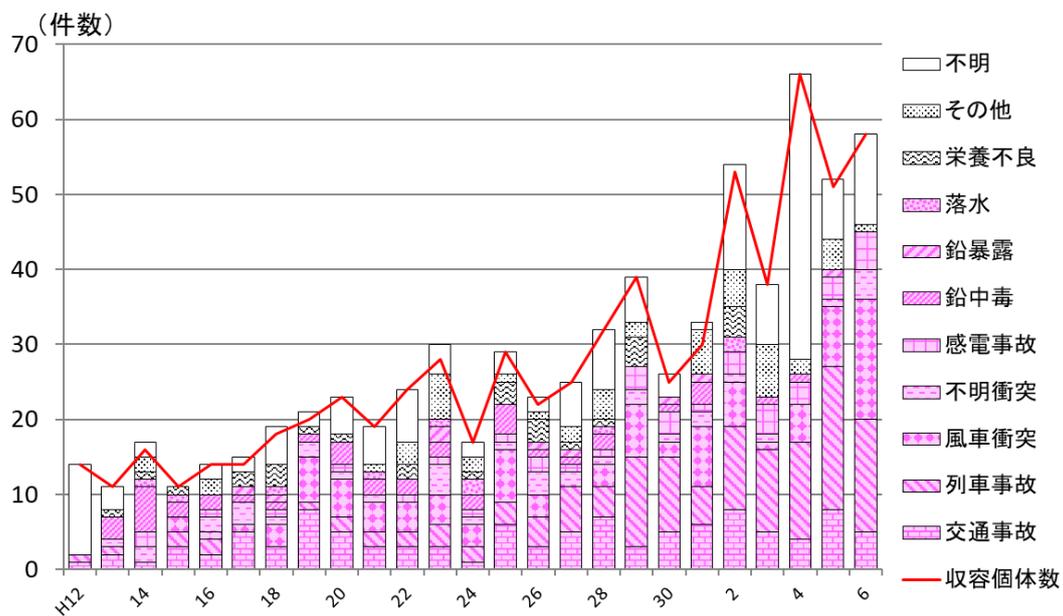


図2 オジロワシ年度別收容件数 (H12-R6年度)

※ピンクで示しているのは人為活動が原因となるもの

※各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があることによる。